タウンタウン小麦

特定非営利活動法人
発　行　くまがや小麦の会
発行責任者　日向美津江
ホームページアドレス
http://www.kumagayakomuginokai.jp/
くまがや小麦の会　検索

NPO法人
くまがや小麦の会
since 2006
事務局　〒360-0801　埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL. 048-521-7801

Interview シリーズ No. 12

ひと彩々

―市民協働「熊谷の力」事業の目指すもの

熊谷市長　富岡 清 さん（61歳）

生年月日　昭和２８年３月１３日

略歴		
	昭和５１年	早稲田大学法学部卒業
	昭和５１年	熊谷市農業協同組合に勤務
	昭和５８年	熊谷市議会議員（２期）
	平成　３年	埼玉県議会議員（３期）
	平成１４年	熊谷市長（１期）
	平成２６年	合併後の熊谷市長（３期目）

近年、人口減少・少子高齢化は、世界に類を見ない勢いで進行し、地方自治体を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。一方、国民、市民の価値観やライフスタイルも大きく変化し、子育てや介護を始め多岐にわたる課題に行政だけで対処していくことが大変難しくなっています。

こうした中、地域や社会の課題解決のために、市民の力やコミュニティ全体の力がますます重要となってまいります。

本市では、市民皆様と行政が力を合わせ、協働のまちづくりを進めるため、「熊谷市協働事業提案制度　市民協働「熊谷の力」事業」を平成二十年六月に創設し、これまで三二事業を実施いたしました。

この市民協働「熊谷の力」事業は、市民活動団体と市が協働で事業を実施し、新たな発想や手法によって地域や社会の課題を解決していこうというものです。

また、協働とは、市民活動団体と市が対等な立場で役割と責任を分担し、協力して目標達成のために事業を行うことをいい、協働することにより、個々に活動する場合よりも、より大きな結果や成果、いわゆる相乗効果が得られるものと考えています。

くまがや小麦の会の皆さんには、今年度、市と協働して、「さとのそら」消費拡大事業に取り組んでいただく運びとなりました。

この事業は、新品種の熊谷産小麦「さとのそら」の消費拡大を図るため、市内八校の県立高校の参加を得て、高校生のアイデアをいかした商品を開発し、販売するという画期的な事業と聞いております。

どんな商品が企画されるのか、また、フレッシュなアイデアが熊谷産小麦の魅力をさらに高めてほしいと期待しているところです。

冒頭にも申し上げましたが、厳しい時代にあって、本市がさらに発展していくためには、「市民にできること（自助）」、「地域にできること（共助）」、「行政が行うこと（公助）」ということを理解し、お互いを補完し合いながら、実践していくことが大切です。

引き続き、市民活動団体の皆さんからのアイデアや発想を市事業に取り入れながら、市民と行政が協働するまちづくりを一層推進していきたいと思います。

官民一体の取組のパートナーとして

商業観光課
課長　松岡 八起

くまがや小麦の会の皆様には、熊谷の地粉を使ったパン作り講習会の開催等、日頃から地産地消の推進に取り組まれ、心から敬意を表する次第です。

そして、今回、本市の特産である小麦の新品種「さとのそら」の拡大・普及に向け、市民協働事業「熊谷の力」・さとのそら消費拡大事業に取り組みいただき深く感謝申し上げます。この「さとのそら」を使った商品が、新たな熊谷ブランドに育ちますよう御期待申し上げております。

また、皆様には、こうした熊谷産小麦の普及促進活動のほか、うちわ祭の際には、連日早朝から清掃ボランティアとして活動いただくなど、社会貢献活動にも尽力いただき、重ねてお礼申し上げます。

本市といたしましても、このような官民一体の取組をさらに充実させていきたいと考えております。

結びに、今後の貴会の益々の御発展と会員皆様の御活躍を祈念申し上げております。

さとのそら消費拡大事業のパートナーとして

熊谷市農業振興課
副参事　川田 勝巳

江戸時代から熊谷宿周辺では、良質の小麦が栽培され、麦王（麦翁）権田愛三によって生産技術が確立されたことから、現在でも熊谷市は埼玉県でトップ、全国でも有数の小麦生産地となっています。

市内では、昭和二十二年頃から主に「農林61号」が生産され、うどんや饅頭など様々な加工品として食されてきましたが、今年産からは、多収量で病気に強いことや加工汎用性を兼ね備えていること等から新品種「さとのそら」が全面的に作付けされました。

このような中、くまがや小麦の会から、「さとのそら」を使用した「クッキー」や「サブレ」などの新製品を市内高校生が中心となり独自に開発する事業を提案いただきました。

この事業は、「さとのそら」の消費拡大だけでなく、市内高校生の郷土を愛する心や食育の推進に大きく役立つものです。

市では、今後も製品の宣伝・販売など、協働事業のパートナーとして、くまがや小麦の会の皆様と一緒に事業を推進してまいります。

埼玉県北部地域振興センター

担当部長　岩井 美文

埼玉県北部地域振興センターでは、県民生活に直結する業務として、住民防犯活動の支援や青少年の健全育成に関する事務のほか、NPOに関する事務として、法人の認証や活動支援などを行っています。

こうしたご縁から、昨年度は「くまがや小麦の会」と「うるおいのまち」の協力による『くわっ葉サブレ』の開発や、熊谷女子高校との連携による『鈴懸クッキー』の販売などを支援させていただきました。

今年度は、「くまがや小麦の会」の提案事業、「さとのそら消費拡大事業」として、熊谷市内の県立高校八校が一堂に会してオリジナル商品の開発・販売を行う『熊谷市内県立高校スイーツ文化祭』のお手伝いをさせていただいております。

新しいブランド小麦「さとのそら」の消費拡大や、地元高校生の社会勉強の機会であると同時に、「くまがや小麦の会」をはじめ関係者の皆様の連携が、より一層深まりますよう、今回のコラボ企画の成功をご祈念申し上げます。

麦笛　「市民協働」

日向美津江

◆平成十八年十二月にくまがや小麦の会が市民団体として設立されてから八年が経過しようとしている。平成二十四年四月NPO法人化を実施、現在認定NPOに向けて仮認定を申請中である。平成二十三年三月にくまがや小麦の会の情報誌として創刊した「タウンタウン小麦」が今回七万部の発行部数をもって熊谷市の全戸にお届けできる事となった。此のことは各方面の方々のご尽力の賜と思う。

◆本年より熊谷産小麦は〈農林六十一号〉が多く栽培されていたが品種改良を余儀なくされて〈さとのそら〉という新品種に作付が変更された。小麦の会は平成二十五年度の熊谷市協働事業提案制度　市民協働「熊谷の力」事業に〈さとのそら消費拡大事業〉と銘打って応募した。提案の趣旨は熊谷市の県立高校に働きかけ、熊谷産小麦〈さとのそら〉を使用した自校のオリジナルブランド製品を高校生と協働して開発する。その製品を実際に販売する市場も開発してゆく。八木橋さんが快く売り場の提供に賛同下さった。その他自校の製品の販売先は限りなく創造できるであろう。自校の製品を持つことにより、自校に対する愛着と自信が助長されないだろうか。自分が高校生活を過ごした熊谷市に対しても然りである。地元への愛着が地元の活性化には不可欠だ。提案事業のパートナーに熊谷市農業振興課、商業観光課が手を組んで下さった。綿密な打ち合わせを重ね第一次選考、第二次選考のプレゼンテーションを市長を初め熊谷市役所の職員皆様の審査を受けて、採択された。

◆高校生と協働するきっかけは、四年ほど前に遡る。熊谷商業高校が六月と十二月に実施している「熊谷商業高校熊谷駅販売実習」に小麦の会が商品提供をしたことから始る。熊商の学生が〈灼熱のあつべえカレーパン〉の企画を持ち込んできた。小麦の会は早速対応した。シールは予算的に余裕がなく、小麦の会のあつべえシールを流用した。熊商が立ち上げたインターネット販売の「くまなびや」にも小麦の会は出店した。熊谷工業高校からも文化祭に出品する製品の製造場所に小麦の会が使用している（株）平松研究室を使用したい申し入れがあり、小麦の会のサポーターを付けながらお使い頂いている。そんな下地が今回に繋がったのかもしれない。製品、シールのデザインには各校全面的に協力、熊谷高校は二年生全員に夏休みの宿題として家庭科の授業で出され、学生が応募した。各校の打ち合わせ会を重ねるごとに「熊谷の力」を実感していった。埼玉県北部振興センターの皆様には高校へのご説明に同行して頂いた。

◆市民協働は地元への愛情が醸し出す協働体制であり、どの様な団体であっても、熱い心を持って行えば必ず協働体制は築かれる。現在の経済界に於いても、協働という仕組みは、共助社会づくりとして金融界まで取り組み、埼玉県との共助社会づくりのための協定書の締結というかたちで動き出している。

小麦の会 活動報告

6/14(土)　第6回 こうなんホタル祭り

江南ほたる祭りが6月14日(土)にピピアにて開催されました。天候に恵まれ今年は他の地区からの参加の方も増え、賑わいました。恒例となった「ほたるパン」は、大人にも子どもにも好評でした。お陰様で短時間で完売となりました。(M･M)

6/22(日)　熊谷商業高校販売実習 熊谷駅コンコース

熊商さんとも長いお付き合いが続いている。駅売りは熊商の真っ赤な長い羽織がコンコースに舞う。先生も生徒も大声で販売実習を行う。熊谷の県立高校8校が全校参加して行われる「熊谷の力」事業はここから始まった。くまがや小麦の会と地元も高校生とのコラボが大きく花開くことを願っている。(E)

7/22(火) 23(水)　うちわ祭 官民協働・市役所通り清掃作戦

両日7:00から9時の早朝、熊谷市役所産業振興部、環境部、北部地域振興センター、市役所前両側の自治会、ふれあいネットワーク、シルバー人材センターのボランティア、熊谷環境連絡会、くましん、くまがや小麦の会が2日延べ人数233名の参加で行われた。自治会には塵取り箒セットをお配りして当日に備えた。当日お集まりの皆様にロゴ入りの麦わら帽子、暑さ対策の飲料水が配布された。皆でやれば早く終わる。約１時間の清掃作戦で17号までの市役所通り、コニュニティー広場、中央公園までもうちわ祭の清掃が完了した。我が町　熊谷を官民協働で清掃できた清々しさか心地よかった。(H)

7/23(水)～25(金)　大幡中学校職場体験学習

今年は3人の女子生徒がきてくれました。パウンド焼成、カット、個包装、サブレのシール貼り等、商品化までの流れを体験してもらいました。流石に女子だけあってケーキ作りは目の輝きが違います。包装も一枚一枚丁寧に仕上げてくれました。短い期間でしたが楽しく作業できました。これからの活躍に期待します。暑い中お疲れ様でした。(K.M)

7/26(土)　「あついぞ！熊谷」おおさと夏まつり 熊谷市大里総合グラウンド

おおさとまつり実行委員会が主催して行われる夏祭りも9回を迎えた。くまがや小麦の会は、大里の豊かな土地に起因するのだろうか、熊谷から向かう道沿いの大らかな景色に魅了され出店を続けさせている。当会の根岸副会長の御膝元、ご家族とご一緒に必ずお越下さり、販売のお手伝いもお引き受け下さる。ほのぼのした良い夏祭りだ。(H)

8/8(金)　第26回 くまがや平和寄席 熊谷市立文化センター

人気テレビ番組「笑点」でお馴染みの春風亭昇太さんが出演のため、会場は大盛況。平和寄席の名前のとおり、お客様も素敵な笑顔で小麦の会製品をお買い上げくださいました。短時間の販売でしたが、パンはあっという間に完売でした。(R)

9/13(土)　サッカーJ1大宮アルディージャVS鹿島アントラーズ
熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

販売開始時にはハプニングがあり少々焦りましたが、おかげさまで460個のパンは完売！サブレ、パウンドも好調でした。継続は力なり～毎回いらっしゃるお客様、お隣さん、スタッフさんとのやりとりなど…。と感じた販売でした。もちろん、観戦も盛り上がりアルディージャ勝利でした。(T.M)

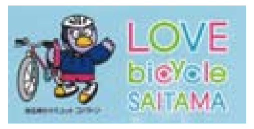
9/19(金)　少し遅めの暑気払いの会

少し遅めの暑気払いが会員40名で行われた。「熊谷の力」のパートナーである熊谷市役所農業振興課川田勝巳様から市民協働「熊谷の力」さとのそら消費拡大事業について講演を戴き、改めて小麦の会の素晴らしさを知った。又、恒例の抽選会では豪華賞品が、ジャンケン大会では賛助会員の近江屋様より「小麦の語らい」が提供され、争奪戦で大いに盛り上がった。(Y.K)

10/3(金)　明神市に出店高城神社明神市 高城神社境内

高城神社の秋祭の明神市が開かれました。毎年この日が近づくと天気が心配で予報をずっと見てしまいます。(雨天中止なので)幸い当日は、晴天で気温がどんどん上昇。30度を越す暑さとなり、そのためかパンの売れ行きがいまひとつで、少々残ってしまいました。奉賛婦人会の方や近所の方々のご協力をいただき、なんとか完売いたしました。毎年、少しづつですが売り上げが伸びているので担当者としては、ホッとしております。(I)

10/5(日)　埼玉サイクリングフェスティバル2014 熊谷スポーツ文化公園
～埼玉から広げようマナーアップの輪を広げよう～



埼玉県の主催により開催される予定だった。サイクリング参加者約1600名、加えてスポーツ文化公園で開催される開会式、ステージショー、トークショー、飲食物産コーナーには25店が出店を予定、ブリジストンが自転車の専門的なブースも構える計画だった。ムサシトミヨ保護センターが中継点となり、サイクリング参加者の休息の場。熊谷市がサイクリング一色に染まるはずだったのに台風18号のため中止となった。(H)

10/12(日)　第7回ニャオざねまつり

2週連続の台風が心配されましたが、幸い、暑くなく寒くなくちょうど良いお天気。午前中から大盛況で、パンは完売。ニャオざねまつりらしく、ニャオざねサブレは大人気！沢山のお客様にお買い上げいただきました。ステージも賑やかで、熊谷市の団体が集まって作り上げた楽しいイベントでした。(R)

あの町この店

権田酒造株式会社

代表取締役社長
権田清志 さん

〒三六〇-〇八四三
埼玉県熊谷市三ヶ尻
一四九一番地
TEL ○四八・五三三・三六二一
FAX ○四八・五三三・七八八九
営業時間
九時～一八時三〇分頃まで
定休日
日曜・祝日
＊イベント参加により臨時休業あり

http://www.ksky.ne.jp/˜gonda
E-mail : gonda@ps.ksky.ne.jp

和醸良酒の地酒蔵

ＪＲ高崎線籠原駅からタクシーで二メーター、徒歩ならば三〇分。三尻小学校南側の坂を下ると真正面に古びた重厚な佇いのお店が現れます。まるで時代をスリップしたような不思議に懐かしい感覚。熊谷唯一の造り酒屋、権田酒造さんです。看板はありませんが看板猫がお迎えします。

江戸末期から続く老舗を継承しているのは六代目・権田清志さん（五十四才）。「和醸良酒」は当主がよく口にされる言葉で、和は良き酒を醸し、良き酒は和を醸す、という意味だそうです。そんなふうに人の笑顔を醸せるお酒、人の笑顔が集う蔵を目指しているのだとおっしゃいます。そして地域の素材を使い、地域の方々に愛される「地酒」造りを心がけているのだとも。

だから地域に根付いたイベントを企画、参加したり、蔵の見学などを積極的に受け入れています。熊谷農業高校の生徒さんとぶどうのリキュールを造ったり、昨年からは立正大学の学生さんと共に日本酒初心者の若者にも飲みやすい味わいを検討したりと、世代を超えた交流も大切にされています。また熊谷で酒米を栽培している研究会の方々と親交を持ち、その酒米「さけ武蔵」と、埼玉県産の酵母をお酒造りの主な原料としています。こうして醸されたお酒は、冷やでも燗でも美味しく、熊谷の真っ赤な夕日と田園風景が脳裏に浮かぶ味わいです。

お酒の銘柄は源平時代の郷土の武将・熊谷次郎直実公の御名より「直実（なおざね）」。その他にも「熊谷桜」、「清太喜」、「空の華」など地元に因んだラインナップです。お酒の種類も大吟醸から特別純米、生酒など多岐にわたり、前回の東京五輪の頃に仕込んだ「秘蔵酒」などという貴重品もあります。さらには武州養蜂園さんとコラボして、日本酒と蜂蜜、寄居町の南高梅を使った梅酒もあります。コクがあり柔らかな味わいで密かな人気商品です。

稲の刈り入れが終われば、日本酒の仕込みが始まります。朝になるとお米を蒸す白い湯気が立ちこめ何ともいえない良い香りが蔵を包みます。これから熊谷桜の開花する季節まで酒造りは続きます。今年の新酒はどんな味？そんなことも楽しみに人々が訪れる酒蔵です。

文化財で街おこし

平山家住宅
―懐かしみのある農家住宅―

熊谷市樋春の荒川右岸に位置している平山家住宅は、江戸中期に建てられた農家住宅で、国の重要文化財に指定されている。建物の概要は、桁行九間（東西方向の幅十七.四M）、梁行六間（南北方向の幅十一.九M）の入母屋造りであり、茅葺の屋根がシンボリックな存在。江戸時代から約十回の改修が行われ、昭和五十年代に実施された保存修理工事によってかつての様式に復元された。西・南面は大屋根の下方に庇を重ね、重い屋根を強固に支えている。庇は低く、東側では人間の肩に届くほどの高さまで広がる。建物には赤松材などが用いられている。吹き抜けの天井となる土間は、四十畳の広さがあり、カマドや、右手側には馬を飼うウマヤが設けられている。現在では室内にてお茶会やコンサートが開催されている。

イベント出店予定

11月		
2日(日)	熊谷市県立高校スイーツ文化祭	八木橋百貨店8F
15日(土)-16日(日)	第10回熊谷市産業祭	熊谷スポーツ文化公園
29日(土)	熊谷商業高校販売実習	熊谷駅コンコース
12月		
17日(水)	熊谷商工会議所女性会『ピザ教室』	平松研究所
21日(日)	ベアリス30km・立正大	立正大学熊谷キャンパス
1月		
16日(金)	わーくほーむ結成人式	わーくほーむ結

■ 会員募集
賛助会員年会費 10,000円　一般会員年会費 一口1,000円
お申込み：TEL 048-521-7801　FAX 048-521-7900

次号のお届けは2015年2月の予定です。
編集室　TEL 048-521-7801　FAX 048-521-7900